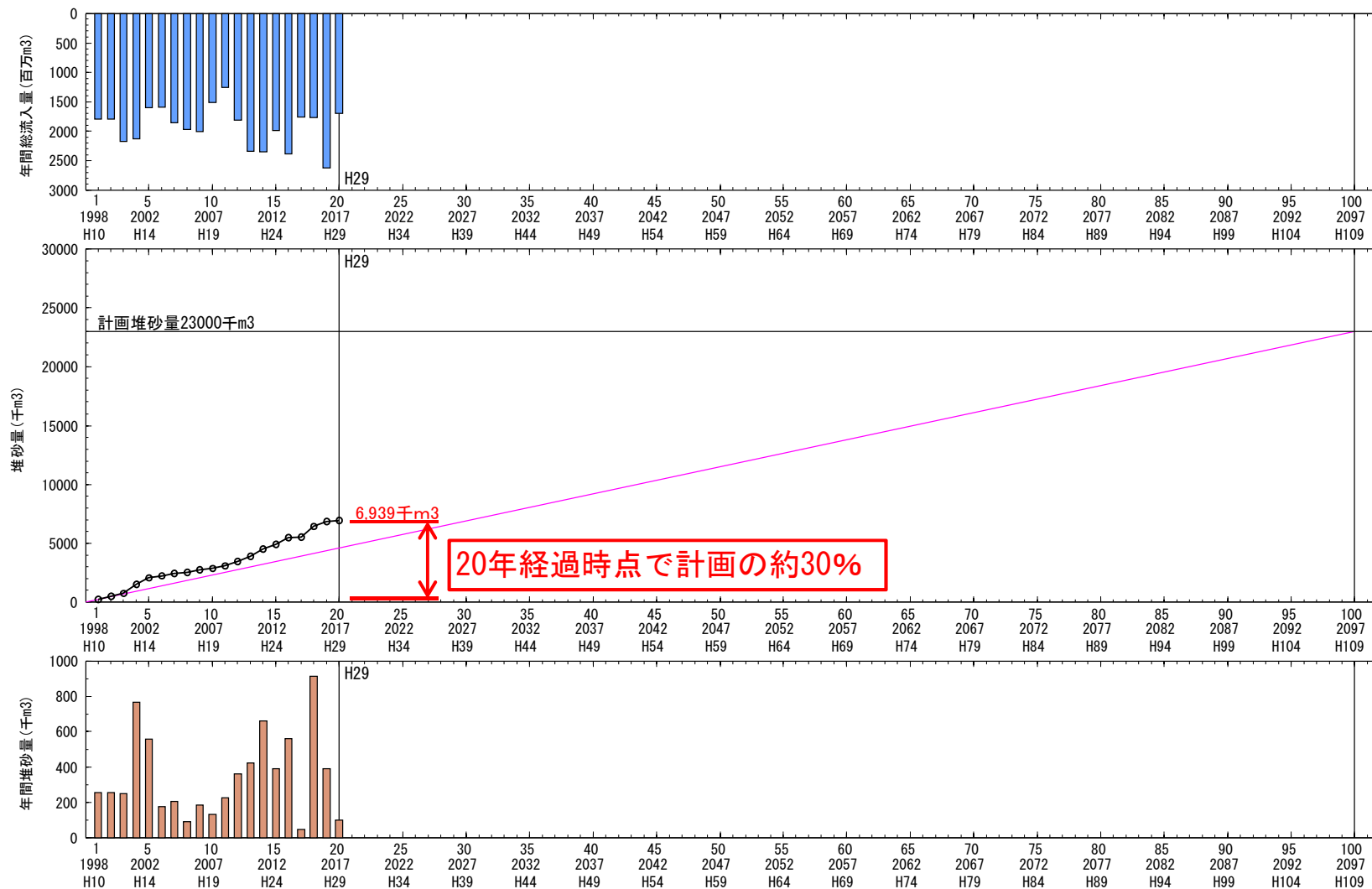


4. 堆砂

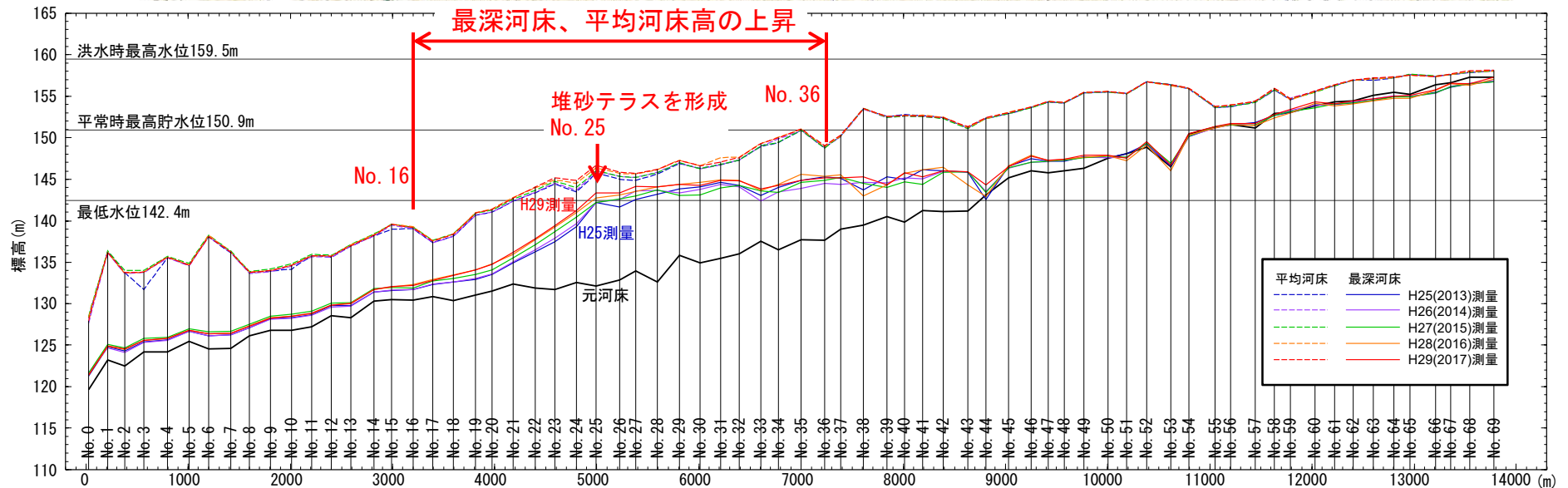
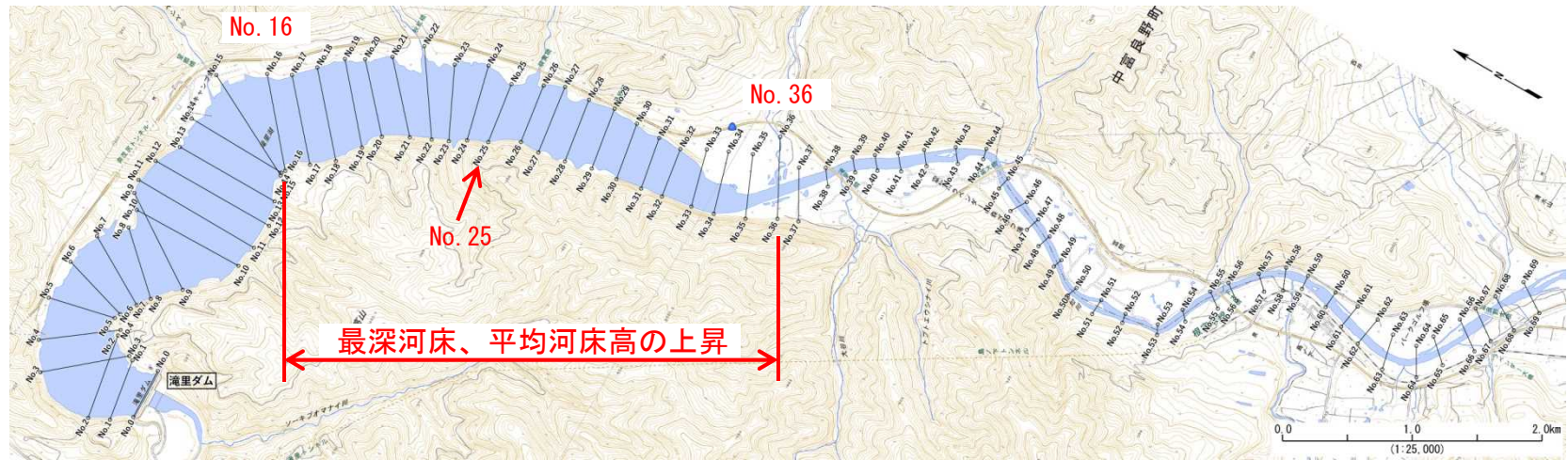
滝里ダムの堆砂状況

- ・ 滝里ダムの総堆砂量は、平成29年現在（計測開始から20年経過）で694万 m^3 であり、計画堆砂量（2,300万 m^3 ）の約30%である。
- ・ 実績比堆砂量は $301\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ であり、計画（ $193\text{m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ ）を上回る堆砂傾向となっている。



堆砂測量縦断面図

- 平成28年の測量で測線No16～測線No36の区間で最深河床高の上昇が認められる。平成28年の洪水以降に流入した土砂の堆積によると判断する。
- 最低水位であるEL142.4m付近(測線No25)に堆砂テラスの形成が確認できる。毎年の貯水位変動に伴って流入した土砂が移動し、掃流力が低下する最低水位付近で土砂の粗粒分が堆積したと考えられる。



◆堆砂のまとめ

- 平成29年現在で計測開始から20年が経過し、総堆砂量は694万 m^3 、堆砂率が約30%であり、計画を上回る傾向となっている。

◆今後の方針

- 今後も継続的に堆砂測量を行う。
- 実績比堆砂量が計画を上回って推移しているため、堆砂の進行を注視するとともに、適切な貯水池管理を行う。